Woody Chicken Philippine volunteer

2019 6 3~2019 6 6

6 月 3 日

pm14:00 前 飛行機遅延のため遅れて到着

いつもならマニラを抜けたあたりのドライブインで軽食を取るが 今回はフィリピン滞在中トントン君との接点を出来るだけ多く取るため、１０分程のトイレ、コンビニ休憩

まだ夕焼けの美しい時間帯にオロンガポ　スービックに到着

Wish House でえりこさんと合流。 トントン君の自宅へ。

トントン君　お母様　兄弟　ご家族に会う

8 人で手に触れ、動脈瘤に触れ、足をさすり、おでこを撫で、言葉を 交わした。

病院の処置で、無理矢理抜かれた前歯がないのを恥ずかしがるトントン君。シャイな笑顔がこぼれた。

お父様は、トントン君が撃たれる一ヶ月前に事故で他界。

トントン君のお父様のお写真を見ると込み上げて来るものが あった。

この日の前日、疲労で倒れたお母様のことも心配。

夜の 8 時頃ドミトリーに到着。

美味しい夕食をいただき、えりこさんとお話をさせていただく。

トントン君の治療に向けての可能性について。

国立の機関であれば、かなりの低額で治療できる可能性。

車の送迎もあるが、面会は禁止 送迎といっても乗合になるそうで、 ゆったりと車で寝ていられる状況ではないらしい。

もしくは私立の病院で高額を支払い、手術。

ただ何れにしても、成功するとは言い切れず、金銭目当ての手術と なり得る可能性がかなり高いという現実。

日本では当たり前の医療事情。ここフィリピンではこれが現実。
助かる命も、きっと沢山、助けられずにいるんだろうな・・・。

恒例のおやつ詰の後、順番にシャワー。　前回の４月での出来事をお伝えさせてもらい、今後の予定とトントン君の話し

『どうであっても、生きたいと望んでいる限り、助けたいよね！』

これが８人一致の気持ちだった。

６月３日のトントン君と
６月メンバーの皆さんと！

トントン君は友人との諍いの末、友達が持っていたピストルで首を撃たれました。彼もピストルを所持していました。彼が、人を傷つける側の立場になっていたかもしれませんでした。４月にはまだ銃弾が残っている状態で、顔は青白く、ガラス玉のような目をしていました。左側の首にあたり、なぜか脊髄をくぐり抜け、右首で銃弾が止まったという奇跡。彼は何度も奇跡を乗り越えてきました。４月に偶然ご一緒させていただいた京都の産婦人科医の先生がのち銃弾の摘出をされています。

6月4日
　朝7時半、この日は水牛の村へカット、アレンジに。
出来るだけ、効率よく、役目を遂行したいという思いをお伝えしていたこと、また雨季による暑さに伴い、水牛が疲弊してしまうとのことで村へは今回バイクで移動。
噴火した火山灰の野原をバイクで走るのも爽快で、ピナトゥボの自然を堪能しながら村へ
この村は、神の住む村と言われ、住む人々も穏やかで、ピュア。
村の子供達に学ぶ環境をと、日本人のさきさんが寺子屋を開設。
久しぶりにマルセルとも再会
とれたてのマンゴーや珍しいバナナをお昼ご飯にいただき、沢山の子供達、大人達のカット＆アレンジ＆ネイル
　その前に、水牛に乗るのが夢だった吉武さんはチャレンジするも水牛には受け入れられず・・・(笑)
　美味しい果物をいただけること、豊かな自然を堪能すること
そして無邪気でシャイな子供達や、それにも負けないシャイな村人達との出会い。そして水牛体験。非日常も体験できる。
個人的には、やはり非日常での美容の仕事は、環境が変わるだけで、

『この仕事に従事していてよかったな！』 っと思える瞬間でもある。

。

午後12時　村とさきさんとはここでお別れ。パブパブ君の住む村へ。

パブパブ君は寄付で心臓病を克服した男の子。 村に着くと同じ心臓病だったマクマック君もお母さんと一緒に。

去年の 5 月のパブパブ君、去年の 11 月のマクマック君はもうここにはなく、元気一杯キュートな笑顔を見せてくれた。 元気な姿に会えるのは、何をおいても最高の瞬間。 パブパブ君は歯磨きが嫌いのようで、虫歯は心臓の負担になるらしい。

かなりの暑さで、一年分の汗をかいた気分。

パブパブ君がマクマック君に
声をかけたらしい。
『君の病気も治るかもしれない！』

カットはアーミースタイル。上を残して周りはバリカンスタイルが人気。ポーズはパブパブスタイル。親指と人差し指を顎に当てるのが　so cool!!!

次はミデル君　トントン君の住む村へ・・・

ミデル君担当、トントン君担当の２班に分かれ、二人のカットへ。
まずは親友ミデル君にご挨拶。今回は生姜キャンディーを購入

ミデル君は不自由な体でありながら、絵を描くアーティストでもある。
今回は、メンバーの利枝さん、千佳さんの名前を描く姿を披露してくれた。
あの腕の可動域で、あんなに細かい絵を描いているミデル君。
生きる努力、生き抜く努力をしていることが伺い知れる。

ミデル君は交通事故で脊髄損傷による麻痺のため、寝たきりに。
一緒に同乗していた友人を亡くし、もう一人の友人は元気に暮らしている。友達が元気でよかった。
そんな優しい気持ちを持つ青年。

二日目のトントン君はヘアカットと虎柄ネイルを施しに。
私は皆様が施術中、アロマのオイルで腕や足のマッサージ。
元気な頃の写真のトントン君は細マッチョなイケメン青年。
お母さんが嬉しそうに見せてくださいました。

『僕の手からはパワーが出ているから、みんなにパワーを送るよ！』

そう言って、一人一人の手を握ってくれました。

帰りにはミデル君の弟がとれたての芋を蒸してくれ、みんなに配ってくれました。美味しいお土産に感謝。

二人とはここでお別れ。二日目の夜はスービックのホテルに 宿泊。
汗まみれの体をスッキリするため、一旦ホテルに。
夜はお楽しみ。絆サロンの仲間とショッピング。

一也さんに真っ赤な顔をして絆メンバーが申告してきたそう。
『体にあった下着を身につけてみたい』

4月の帰りの飛行機の中で、今まで頑張ってきたから、ご褒美をあげよう！っという話にまとまり、 絆サロンメンバーと初ショッピングへ。

　一也さん、吉武さん、つばさくんの男性メンバーは、ドーナツミーティングへ。女子チームはフィリピンの若い子に人気の『BENCHI』というブランド店へ。
　ワイワイ女子ショッピング熱は国境を越える。
このショッピングのもう一つの目的は彼女達が本当に美容師を目指したいのか？その本心に触れるため。

　『親に稼いでこいっと言われる。その度に何度も何度もくじけそう になる。でも諦めたくない。美容師になりたい。』

そう訴えたナニン。美容への情熱を確信する時間だった。

今回はレイナに会うことができなかった。レイナはお父様のお仕事のお手伝いに難民キャンプに行っていたようだった。
　一人一人が美容の仕事で生活できるようになるためには、困難も多いが、地道に積み上げていくしかないように思う。

この後、一也さん、絆スタッフとともに、ショッピングモール内の
フィリピンレストランで食事。

男性チームも、一也さんとの時間で充実したお話ができたようだ。

夜は８人でミーティング。
女子会ショッピングミーティング、男子会ドーナツミーティングの内容のシェアと明日の絆サロンでのレッスンの打ち合わせ
８人それぞれのボランティアに対する思いのシェア。
それぞれの熱い想いを聞かせていただき、解散

6月5日
朝一番に市場へ買い出し。マンゴーやバナナのおやつやカラマンーやトマトなどを買って、絆サロンへ。

絆サロンでは、まずは店内清掃から。
今回の絆サロンでは、接客おもてなし、ダメージに対応するストレートパーマの技術、メイクの教育を全て同時進行で行う。
ナニンはカットやカラー、ストレートに、エレナやティナはメイクに興味を持っているようで、好きな分野を伸ばす方向で、指導をすることに、また教わったことはお互いシェアすることも指導し、 午前のレッスンは終了。
終始和気藹々とレッスンすることができた。
カラーの色みが不足しているのもあるが、、色みの調整、配合が苦　手なようで、リタッチ部と既染部の色みを揃えることが苦手の様子.
おもてなしの面で言うと、彼女達のおもてなしは、ナチュラルでいて温かい彼女達らしい明るい接客ができているように思う。

手作りスープや買ってきた果物をいただき、午後はえりこさんと行動をともにする。

まず向かったのはネグレクトな地域。支援をした子が住む地域ではないがえりこさんが連れて行って、違いを感じて欲しいとのこと。
この地域ではルールがあった。

『プレゼントをあげる子にはあらかじめ目星をつけて、あげたら素早く車に乗り込んでください。何が起こるかわかりません。』

キリがないこと。また、妬みや諍いの原因になりかねないこと。

一歳の子供の体重が４キロ。いつまでこの命が持つかわからないこと。 真っ裸の子が目立ち、子供が子供の世話をしていること。
ちゃんと食事を与えていない。水牛の村にいた子供たちとは、全く違う空気感。親の心の弱さが、子供に反映しているのが一目でわかった 地域だった。

ネグレクトのある村。
ここではアレンジと服のプレゼント。終わったら、素早く車へ。

ここからは支援で手術ができ元気になったブーヨ君。

とってもシャイなブーヨ君
お菓子を見せると満面の笑顔。
可愛く元気で暮らしている様子
よかった。元気な姿を見ることができ
ることが一番の幸せ。

水頭症のステファニーちゃん。
音のなるぬいぐるみに、声を出し
て笑っていましたよ。
家族に愛されているステファニー
ちゃん。オムツやミルクの支援も
大変助かるとえりこさん。
お母さんがとっても献身的です。

AJ くんの村ではマンゴーをお土産に頂き
ました！AJ 君はとっても元気。
おばあちゃんは結膜炎なのだとか。
村の子供達とも楽しく暮らしている様
子。よかった。

ここでえりこさんはこんなお話をくださっていました。

ここでは、自分たちの髪も自分たちでカットする。そうやって今まで暮らしてきているんです。だからカットはしてもらわなくてもいいんです。それよりも、海外の方に触れること。よその人たちが自分たちに触れてくれること。でも、見慣れない大勢の人が突然やってきたら、怖いですよね？ここの人たちも一緒なんです。もっとゆっくりと時間をかけて、子供達と仲良くなってもらって、あなたたちは大切にされる存在なんだよということを、肌で感じて欲しいのです。美容師さんの魔法の手で。大人って本当はこういう人達なんだよっということを見せてあげて欲しい。見て、知って、触れてもらって、どうすればいいのか、一緒に考えて欲しいのです。

っと。

えりこさんの言葉により考えさせられ、またこれからのボランティアのあり方を肌で感じた瞬間でした。

どうすればいいのか・・・一緒に考えてほしい・・・。

この後はゴミ山へ。ゴミ山は移転し、かなり小さな場所に移動。

ゴミ山に暮らす方々にも派閥があり、最悪の時は暴動が起きるほどの危険な地域。少人数だったから、連れてこられると・・・えりこさん。

マザーテレサが救ったと言われる女の子も背が伸びていた。親の虐待から救われたこの子。
鋭い眼光が気になる・・・。この子は今・・・どんな思いで暮らしているんだろうか・・・。

子供にも大人にもお菓子を配る。
大人は人懐っこい。配ったおやつも均等に。
近所のみんなに分け与える。
ゴミから金属を拾い上げて、収入を得る。
えりこさんは話す。
ここの人たちは仕事しているから、まともなんです。っと。

そしてダニエラちゃんの村へ。

ここは漁港。村に入るとアンダーグラウンドな空気が漂う。
大人は昼間から博打をし、目が真っ赤。 麻薬と売春の街。
そんな街にダニエラちゃんは暮らす。
やさぐれているという噂。そんな噂は一掃するような、ダニエラちゃん。
髪はすっきりショートヘアにし、背も随分伸びて、
快活な元気そうなダニエラちゃん。元気になって本当に よかったね！

そして６月５日のトントン君

泣いていました。
心が完全に緩み、解放した時間でした。８人が想い想いの気持ちでトントン君を励ましました。
右腕が上がるようになってきたんだと、腕を上げ、指を動かしました。

優しい時間が流れていました。
別れ際の涙は胸が締め付けられるような思いでした。

そして最後はホテル近くの焼肉へ！

あっという間の４日間。泣いて笑った４日間。
沢山の出会いと気づきのボランティア。

現実を見て、知って、触れて欲しい。
そして一緒に考えて欲しい。

一也さんとえりこさんの言葉が染み入った４日間でした。

参加させていただき、本当にありがとうございました。

団長　　上田眞弓
副団長　吉武慶次郎　山本千佳
　　山口恵美代　吉田奈美子　江原博子　安井利枝　横山飛翔

感想文

・少人数での参加はえりこさんと直接お話しできる機会が沢山あり、大変貴重で、 直接現地で触れ合う機会を作ってくださったことは大きかった
・一也さんの一度関わり求められたら、全力で自分の全てをかけて関わる愛の深さを感じた。
・何が必要で何が余計なのかを知ることができた
・今までウッディーの皆さんが真剣に関わってきたからこそ、富田ご夫妻から求められて、そして信頼してくださっていることを実感できた
・学び、感動することができる。
・意識の足りなさに反省し、違いを理解し、共に必要とされる存在になり、関わった人たちの人生の糧になるよう努めたい。
・トントン君との出会いで、命とは何かを考えさせられている
・物質的にあることが本当の幸せなのかを考えさせられる。
・如何しようも無い暮らしや病の中で感じるのは、自然の力、人間本来の持つエネルギー、知恵、そして人の愛。
・できることをできる限り、一生懸命に取り組めることの喜び　感謝の気持ち
・押し付けのボランティアではなく、本当に求められていることを遂行したい結果それが秩序が保たれ、ゆっくりと良い変化が持たされていくように思う
・その都度、過剰になりすぎない、手渡せる物資の準備ができると良い
・絆サロンの仲間の未来。方向性。生活を知り、より良い道を共に模索したい。

～フィリピンボランティアに参加して～

私達が飛行機で４時間のフィリピンの国は、第二次世界大戦において、５０万人の日本兵がなくなった地でもあります。
絆サロンがある地域にも戦時中は死体がゴロゴロ転がっていて、足の踏み場もないような地域だったそうです。
戦後７４年。忘れてはならないのは、お国のために戦った若い日本兵が、祖国を思い、家族を思い、亡くなっていった国に、私達は足を踏み入れている。

今の豊かな日本があるのも、沢山の犠牲の上で成り立っているということ。

ウッディとのご縁で、この地に来れた事を偶然と捉える事なく、日本人として、心から追悼の意を申し上げる。その想いの中で、手を合わせる事も忘れてはならない大切な事と思います。

印象的だったのはゴミ山に行く道中、ひときわ立派な家を見た時のこと。

あの家はゴミ山御殿。ゴミ山での作業で大金持ちになったのだそうです。
みんな、あれを目指して、ゴミ山での仕事に励んでいる。っとえりこさん。

不衛生な環境での人間の適応能力。
水牛の村の人たちは日本人の６倍の視力があるという・・・。

その上、ストレスなどは無縁。
鬱という病気もない。
皆が手を差し伸べて生きている。

医療が発達していない。そのために存在する現実は
生命力のあるものは生き残り、無いものはこの世を去る。

自動車整備工場でピストルを製造販売。
２、３千円で購入できる。

良し悪しでは無い・・・ただ、日本との違いを改めて考えさせられる
４日間でした。

ご精読誠にありがとうございました。